

## 「ヤイロの娘と長血の女（前編）」

マルコの福音書 5:21～34

### はじめに

今日の箇所は、イエシュアによって二人の女性が癒された出来事が中心となっています。その女性の一人は会堂管理者ヤイロという人の娘で、彼女は死の病を患っていました。そしてもう一人の女性は十二年間も長血（「赤帯下」ともいう婦人病の一種）に苦しんでいました。彼女たちはそれぞれ異なった形で癒されていきます。今日はその前編になります。聖書に記された一つひとつの出来事が一体何を指し示しているのか、何を表しているのか、考えてまいりたいと思います。

### 1. ヤイロ

【新改訳 2017】マルコの福音書

5:21 イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

5:22 すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、

5:23 こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」

5:24 そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。すると大勢の群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

「ヤイロ」という一人の会堂司<sup>かいどうつかさ</sup>がイエシュアの前に現れます。会堂司とは、ユダヤ人の宗教的集会場である、シナゴークとも呼ばれる会堂の管理責任者のことで、その職務は、会堂の維持管理をするだけでなく、聖書の朗読箇所の選定、礼拝の司会、また聖書朗読者、説教者の指名なども行ったそうです。また礼拝の秩序を保つ責任を果すために異端者を追放することもありました。一つの会堂に複数の会堂管理者が置かれることもあったそうです。そんな会堂司の一人である「ヤイロ」という人の娘が死にかけていました。イエシュアは彼の懇願に応え、一緒に行かれたとあります。この状況について考えてみますと、まずこの「ヤイロ(יֵירוֹ)」という名は「光、光る」という意味のオール(אוֹר)がその語源であると考えられます。オールはその最初の言及である創世記 1:3 から、闇から光が呼び出されたように、神のものとして選り分けられることを表す代表的、象徴的存在です。神がお選びになったその具体的な存在は、ユダヤ人も呼ばれるイスラエルの民です。彼らの父祖であるアブラハムはウル(וּר)という町で生まれ、そこから神に呼び出されましたが、この名もまたオールが語源となっており、この繋がりに大きな意味があると考えられます。つまりこの「ヤイロ」とはアブラハムを指し、そして死にかけている彼の娘とは、アブラハムの子孫であるイスラエルの民を指し示した「型」と考えられるということです。イエシュアがヤイロとともに彼の娘のもとへ向かう姿は、神がアブラハムをお選びになり、彼と交わされた契約（創世記 12:1～3）を、神の御子、メシアであるイエシュアが果たされることを指し示しており、国土を失い、世界中に離散したイスラエルの民を集め、王となって国を再興されることが、死にかけているヤイロの娘を癒そうとされている行為に「型」として表されていると考えられます。この出来事はイエシュアが再びこの地

上に戻って来られる、地上再臨の際に起こります。それが「5:21 イエスが再び舟で向こう岸に渡られる」という出来事に指し示されており、イエシュアの「みもとに集まって来た・大勢の群衆」とは、イスラエルを通して祝福される地上のすべての国々を表していると考えられます。

【新改訳 2017】創世記

22:18 あなた（アブラハム）の子孫（イスラエル）によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

またヤイロがイエシュアに「懇願した」ともありますが、これも一つの預言を指し示す行為です。

【新改訳 2017】ゼカリヤ書

12:8 その日、【主】はエルサレムの住民をかくまう。その日、彼らの中のよろめき倒れる者もダビデのようになり、ダビデの家は神のようになって、彼らの先頭に立つ【主】の使いのようになる。

12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。

「ダビデの家とエルサレムの住民」すなわちイスラエルの民に、「その日」すなわち主が「恵みと嘆願の霊を注ぐ」とあります。イエシュアの足元にひれ伏し、「懇願した」ヤイロの姿には、この預言が指し示されていると考えられます。そして死にかけているヤイロの娘が癒されることが「よろめき倒れる者もダビデのようになり…」という預言に結びついていると考えられます。

イエシュアについての記述、その言動、行動、起こった出来事のすべては、このように、単なる奇蹟、単なる出来事というだけでなく、神がこれまで成され、そしてこれから成そうとしておられるご計画を指し示したものであるということが言えるのです。

## 2. 12年の長血

【新改訳 2017】マルコの福音書

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人があった。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

ヤイロの出来事の中に挟み込まれるようにして、この「長血をわずらっている女の人」の出来事が記されています。これもまた単なる癒しの奇蹟ではないと考えられます。彼女は「十二年の間、長血をわずらって」いたとあります。ヘブル語で「十二」のことをシェッテム・エスレー(שְׁתַּיִם עָשָׂר)と言いますが、この言葉は本来、王に仕えた年数、仕えることを表した言葉でした。

【新改訳 2017】創世記

14:4 彼らは十二年間ケドルラオメルに仕えていたが…。

これはアブラハムのいた時代、エラムの国のケドルラオメルという王が、他に五人の王たちの国をも支配下に置いていたことが記された箇所です。「彼らは十二年間ケドルラオメルに仕えていた」とあり、ここに聖書で最初のシェッテム・エスレーがあります。このように「十二」シェッテム・エスレーは本来、ただの王ではない、王たちの上に立つ王、すなわち王の王、主の主仕えることを表した数、言葉であったと考えられ、これもまたイスラエルの民を指し示す言葉であると考えられます。イスラエルはアブラハムの子イサクの子ヤコブの12人の息子たちを族長とする12の部族からなる民です。イエシュアが弟子の数を12人とされたことも、イスラエルが12部族であることが理由です。なぜならイエシュアは弟子たちにこのように約束されたからです。

【新改訳 2017】マタイの福音書

19:27 そのとき、ペテロはイエスに言った。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。それで、私たちは何をいただけるのでしょうか。」

19:28 そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。」

ですからこの「十二」という言葉はイスラエルの十二部族を表していると考えられ、この「十二年の間、長血をわずらっている女の人」もまた、ヤイロの娘と同様に、イスラエルの民を指し示す「型」であると考えられます。彼女の病であった「長血」には、旧約聖書では「漏出」と訳されているゾーヴ(זוּב)という名詞が使われています。この最初の言及はレビ記 15:2 です。

【新改訳 2017】レビ記

15:2 「イスラエルの子らに告げよ。だれでも、隠しどころから漏出があったなら、その漏出物は汚れている。」

15:3 その漏出物による汚れは次のとおりである。その隠しどころが漏出物を漏らしても、あるいは、その隠しどころが漏出物をとどめていても、そのことはその人の汚れである。

15:4 漏出を病む者が寝た床は全体が汚れる。またその人が座った物もすべて汚れる。

15:10 また、何であれ、その人の下にあった物に触れた人はだれでも夕方まで汚れる。また、それを運んだ者も自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。

15:11 また、漏出を病む者が水で手を洗わずに触れた人はみな、自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。

15:12 漏出を病む者が触れた土の器は砕く。木の器はどれも水で洗う。

このように、ゾーヴとは汚れを意味し、その人が触れたものまでもが汚れるという非常に重篤なものでした。彼女はおそらく周囲の人々から避けられ、のけ者になっていたことでしょう。「多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。」という悲惨な状況が記されていますが、これもまたイスラエルの民の姿を表したものであり、ユダ

ヤ人とも呼ばれる彼らが世界各地に離散させられ、その行く先々で迫害され、虐待、虐殺されてきた歴史的事実を表した「型」であると考えられます。

しかし痛ましい事実の中にも、同時に神の民としての彼らに対するご計画も見ることができます。この「長血、漏出」を意味する名詞ゾーヴは、動詞になると「流れる、ほとぼしる」という意味のズーヴ(זוּוּב)となり、その最初の言及は出エジプト記 3:8 になります。

【新改訳 2017】 出エジプト記

3:8 わたしが下って来たのは、エジプトの手から彼らを救い出し、その地から、広く良い地、乳と蜜の流れる地に…彼らを導き上るためである。

3:9 今、見よ、イスラエルの子らの叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプト人が彼らを虐げている有様を見た。

神が「下って来」られ、イスラエルの民を「救い出し」、そして「乳と蜜の流れる地」へと導かれる、ここに聖書で最初のズーヴがあります。これは本来、神がモーセに語られたものですが、終わりの日には、再臨されたイエシュアによってこのことが成されるのです。このように、「長血」という言葉には、イスラエルの民が受ける苦しみだけでなく、イエシュアが天からこの地に下って来られ、イスラエルの民を選び出し、そして真の「広く良い地、乳と蜜の流れる地」である「神の国」をお与えになるというご計画もまた表されていると考えられます。

### 3. 衣に触れる

【新改訳 2017】 マルコの福音書

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

イエシュアの癒しの方法は様々ですが、ここでのものもまたユニークです。ほとんどの癒しはどんな手法であれ癒す側から、イエシュアの方から働きかけて行われるのですが、ここでは「うしろからイエスの衣に触れた」とあるように、癒される側から、彼女自らがそれを引き起こす形でなされています。さらにここで「触れた」という意味で使われているヘブル語のナーガ(נָגַע)は本来、癒しとは真逆の意味の、死を意味するような言葉として使われています。

【新改訳 2017】 創世記

3:2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の實を食べてもよいのです。」

3:3 しかし、園の中央にある木の實については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。』

これはサタンの誘惑によって神に背いてアダムとエバが食べてしまった善悪の知識の木の實についてのものですが、「触れて」と訳されている聖書で最初のナーガが「死ぬ」ことを指し示していることがわかります。しかし実際には長血の女性はイエシュアの衣に触れ、死ぬどころか完全に癒されています。この

意味は、彼女がイエシュアの身体にではなく「衣」に触れたことに表されています。ここにベゲド(בגד)という名詞が使われていますが、これが動詞になるとバーガド(בגד)となり、その最初の言及は出エジプト記 21:8 となります。

【新改訳 2017】 出エジプト記

21:8 彼女を自分のものと定めた主人が、彼女を気に入らなくなった場合は、その主人は彼女が贖い出されるようにしなければならない。主人が彼女を裏切ったのだから、異国の民に売る権利はない。

これはイスラエルにおける女奴隷に関する規定の一つですが、ここで「裏切った」と訳されているのが聖書で最初のバーガドです。このように、バーガドには本来、「贖い出される」という意味が指し示されていると考えられます。また長血の女性は「癒される」とは言わずに「私は救われる」と思っていたとあり、ここにイエシュアの名の語源でもあるヤーシャ(ישעיה)が使われていることから、この 12 年間長血を患っていた女性がイエシュアの衣に触れて癒されたという出来事には、イエシュアの贖いによってイスラエルの罪の汚れがきよめられ、赦されることが表されていると考えられます。イエシュアによる贖いとはもちろん十字架の死による贖いであり、先ほどの「触れた」という意味のナーガの本来の意味が指し示した「死ぬ」こととは、イスラエルの罪の贖い、身代わりとしてのイエシュアの十字架の死を指し示しているということになります。

#### 4. 乾く

【新改訳 2017】 マルコの福音書

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

彼女は癒されました。それについて聖書は「血の源が乾いて」という表現を用いています。ヘブル語で「乾く」ことをヤーヴァシュ(יבש)と言いますが、これは本来、血ではなく地が乾くことを意味する言葉です。

【新改訳 2017】 創世記

8:7 鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。

これはノアの箱舟の出来事の一場面ですが、全世界を水没させた大洪水の後、ノアは陸地を探すために一羽の鳥を放ちます。「水が地の上から乾くまで」という箇所にも聖書で最初のヤーヴァシュがあります。「鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。」とあるように、ヤーヴァシュは鳥が「出たり戻ったり」する様子を指し示していると考えられます。この長血の女性はイスラエルの民の「型」であると述べました。イスラエルの民にとって「出たり戻ったり」、行って、そして戻って来る存在、これはイエシュアの地上再臨を表したものであると考えられます。彼女の「血の源が乾いて、病気が癒やされたこと」の中に、イエシュアが再びこの地上に戻って来られ、そしてイスラエルを癒す、救うという神のご計画が表されていると考えられます。

このように、ヤイロの娘の癒しの出来事の際に、この長血の女性の出来事が挟み込まれるように記されているのは、イスラエルの民が神の国の民となり、神がアブラハムと交わされた契約、計画が成就するためには、彼らの罪がイエシュアの十字架の死によって必ず贖われなければならないことが表されていると考えられます。

## 5. 見回す

【新改訳 2017】 マルコの福音書

5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

このイエシュアが癒された女性を探す様子は、終わりの日に、世界中に離散しているイスラエルの民を一人残らず見つけ出されることが表されていると考えられます。「イエスは周囲を見回して」という箇所に使われているナーヴァト(נָוַוֵּ)は創世記 15:5 にその最初の言及があり、本来は天を見上げ、星を数えることを意味する言葉です。

【新改訳 2017】 創世記

15:5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

神はアブラハムに天の星々を指して「あなたの子孫は、このようになる。」と言われました。星の数を数えることなど人にはできませんが、神ならばおできになります。ですからナーヴァトとは本来、イスラエルの民、世界中に離散した神の選びの民を数える、つまり正確に覚えておられ、これを見つめておられることが表された言葉であると考えられます。そしてイエシュアが地上に再臨される時、この民を一人残らず見つけ出され、集められます。それが「イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた」という行為には表されていると考えられます。

## 6. 信仰

【新改訳 2017】 マルコの福音書

5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

彼女が「**恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し**」ている様子は、イスラエルの民が自分たちの犯した過ち、罪に気づかされることを表していると考えられます。それはすなわち、神の御子、メシアであるイエシュアを十字架にかけて殺したことです。ここで「**恐れおののき**」という箇所に使われているヤーレー(אָרֵר)は本来、エデンの園でアダムが罪を犯したゆえに生じた(創世記 3:10)、いわば罪責感によるものです。彼女の恐れがイスラエルの民のそれを表したものであったと考えられます。

そんな彼女にイエシュアは「**あなたの信仰があなたを救った**」と言われました。「**信仰**」を意味するヘブル語の名詞エムナー(אֱמוּנָה)は「信じる」という意味の動詞アーマン(אָמַן)がその語源で、最初の言及は創世記 15:6 です。

#### 【新改訳 2017】 創世記

15:5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

15:6 アブラムは【主】を**信じた**。それで、それが彼の義と認められた。

このようにアーマンとは本来、やがて神がアブラハムの子孫を天の星のように増やし、これを祝福されるという具体的な事実を指し示しています。ですから「**あなたの信仰があなたを救った**」というイエシュアの言葉は、長血が癒された女性に表されたイスラエルの民の上に、神がアブラハムに約束されたこの御言葉が成就することを指し示していると考えられます。

## 7. 安心して

そしてイエシュアは彼女に「**安心して**」、ヘブル語でシャーローム(שָׁלוֹם)と言われました。この言葉もまた本来、アブラハムに対して語られたものでした。

#### 【新改訳 2017】 創世記

15:15 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。

「平安のうちに先祖のもとに行く」ここに聖書で最初のシャーロームがあります。このようにシャーロームとは「先祖のもとに行く」ことを指し示した言葉です。「先祖」と訳されているアーヴ(אָב)は本来「父」という意味で、神はアブラハム自身がその「父」であると言われました。

#### 【新改訳 2017】 創世記

17:4 「これが、あなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の**父**となる。

17:5 あなたの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の**父**とするからである。

17:6 わたしは、あなたをますます子孫に富ませ、あなたをいくつもの国民とする。王たちが、あなたから出てくるだろう。

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。

17:8 わたしは、あなたの寄留の地、カナンを、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。わたしは彼らの神となる。」

このように、アブラハム自身が「先祖」と訳された「父」アーヴですので、彼が「平安のうちに先祖のもとに行く」とは、上記の神の契約が果たされる、成就することを指すと考えられ、つまりイエシュアが癒された女性に「安心して」シャーロームと言われた記述には、アブラハムの子孫であるイスラエルの民にこの契約が「代々にわたる永遠の契約として」果たされる、成就することが指し示されていると考えられます。今日、ユダヤ人だけでなく、私たちクリスチャンの間でもあいさつの言葉としてしばしば用いられるシャーローム（シャローム）ですが、このように、この言葉が持つ本来の意味は非常に重要で、しかも具体的な出来事、神のご計画を指し示しています。

イエシュアの地上再臨によって、このシャーロームの意味をはじめとする、今日述べた神のご計画が現実のものとなる時、すなわち「神の国」が建つ時、真に「苦しむことなく、健やかで」いられる世界がこの地上に訪れるのです。単なる慰め、励ましの言葉としてではなく、「神の国」を思い、この長血を癒された女性の中に指し示されたイスラエルの民を見つめながら、イエシュアはこの「安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」という言葉をかけられたのだと思われます。

このように、イエシュアの目はいつも「神の国」に向けられており、その上でご自分の身の回りに起こるすべての出来事に対処しておられたと考えられます。そしてそこに天におられる父なる神の御心、ご計画が「型」として表されていきました。今日、私たちの目は一体どこに、何に注がれているのでしょうか。私たちの目を「神の国」に向けましょう。御霊の助けと導きがありますように。